

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		<b>Q 建築物の環境品質</b>							<b>2.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.36</b>		<b>-</b>		<b>2.9</b>		
<b>1 音環境</b>		<b>2.6</b>	0.15	<b>2.2</b>	1.00		<b>2.5</b>		
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	1.0	0.40				
1.2 遮音		3.0	0.40	3.0	0.40				
1 開口部遮音性能		3.0	0.62	3.0	0.30				
2 界壁遮音性能		3.0	0.38	3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	3.0	0.20				
1.3 吸音		1.0	0.20	3.0	0.20				
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.5</b>	0.35	<b>2.6</b>	1.00		<b>2.5</b>		
2.1 室温制御		3.2	0.50	3.4	0.50				
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57				
2 外皮性能	[外壁:GW24K][外床:ウレタン吹付A種1]	4.0	0.25	4.0	0.43				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38		-				
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20				
2.3 空調方式		1.0	0.30	1.0	0.30				
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.3</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00		<b>3.3</b>		
3.1 昼光利用		4.2	0.30	4.2	0.30				
1 昼光率	事務室:昼光率4.32%、宿泊室:昼光率5.70%	5.0	0.60	5.0	0.60				
2 方位別開口			-		-				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40				
3.2 グレア対策		3.0	0.30	3.0	0.30				
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00				
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15				
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25				
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.5</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00		<b>3.5</b>		
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63				
1 化学汚染物質	天井裏を含めF☆☆☆☆又は告示対象外品	4.0	1.00	4.0	1.00				
4.2 換気		3.0	0.30	3.0	0.38				
1 換気量		3.0	0.34	3.0	0.33				
2 自然換気性能		3.0	0.32	3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.34	3.0	0.33				
4.3 運用管理		3.0	0.20		-				
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-		-				
2 喫煙の制御		3.0	1.00		-				
<b>Q2 サービス性能</b>		<b>-</b>	<b>0.30</b>	<b>-</b>	<b>-</b>		<b>2.8</b>		
<b>1 機能性</b>		<b>2.2</b>	0.40	<b>1.6</b>	1.00		<b>2.2</b>		
1.1 機能性・使いやすさ		2.0	0.40	1.0	0.60				
1 広さ・収納性		1.0	0.32	1.0	0.50				
2 高度情報通信設備対応		2.0	0.32	1.0	0.50				
3 バリアフリー計画		3.0	0.37		-				
1.2 心理性・快適性		2.2	0.30	2.5	0.40				
1 広さ感・景観	宿泊室天井高さ2.6m	3.0	0.32	4.0	0.50				
2 リフレッシュスペース		3.0	0.32		-				
3 内装計画		1.0	0.37	1.0	0.50				
1.3 維持管理		2.5	0.30		-				
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-				
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50		-				
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.1</b>	0.30		-		<b>3.1</b>		
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50		-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.7	0.30		-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	窯業系サイディング	5.0	0.20		-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10		-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出:ガルバリウム鋼板	4.0	0.10		-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	屋内給水管:HIVP、屋内汚水・雑排水管:VP	4.0	0.20		-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-				
2.4 信頼性		2.8	0.20		-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20		-				
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20		-				
3 電気設備		3.0	0.20		-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-				
5 通信・情報設備		3.0	0.20		-				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.3</b>	0.30	<b>2.9</b>	1.00	<b>3.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.2</b>	0.28	<b>2.8</b>	0.50	
1 階高のゆとり	事務所:3.95m、工場:3.95m、ホテル:3.85m		5.0	0.60	4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ	—		3.0	0.40	1.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>	—		<b>3.0</b>	0.28	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.43		-	
1 空調配管の更新性	—		3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性	—		3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性	—		3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性	—		3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性	—		3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保	—		3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			—	0.34	-	-	<b>1.8</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>	—		<b>1.0</b>	0.30		-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>	—		<b>2.0</b>	0.40		-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30		-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	—		2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	—		3.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			—	-		-	<b>3.3</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			—	0.40	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	高断熱仕様の断熱材を採用。		<b>5.0</b>	0.20		-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>	—		<b>3.0</b>	0.10		-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	BEI=0.73 高効率設備の採用		<b>3.7</b>	0.50		-	<b>3.7</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング	—		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制	—		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1 モニタリング	—			-		-	
4.2 運用管理体制	—			-		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			—	0.30	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20		-	<b>3.4</b>
1.1 節水	大便器:4.8L、小便器:0.9L、便所手洗水栓:自動水栓		<b>4.0</b>	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無	—		3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	—		3.0	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.6</b>	0.60		-	<b>2.6</b>
2.1 材料使用量の削減	—		2.0	0.11		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	—		3.0	0.22		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	—		3.0	0.22		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	—		1.0	0.22		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	—		-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGSの採用		4.0	0.22		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20		-	<b>3.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用	—		<b>3.0</b>	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70		-	
1 消火剤	—		-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)	吹付硬質ウレタンフォーム(ノンフロン)・押出法ポリスチレンフォーム保温板		4.0	0.50		-	
3 冷媒	—		3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			—	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	高性能の断熱材や高効率設備の採用		<b>3.6</b>	0.33		-	<b>3.6</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33		-	<b>3.0</b>
2.1 大気汚染防止	—		3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善	—		3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.0</b>	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減	—		3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制	—		3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制	利用者用の駐輪場・バイク置き場の設置。出入口の配慮。		4.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制	—		2.0	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>2.7</b>	0.33		-	<b>2.7</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40		-	
1 騒音	—		3.0	1.00		-	
2 振動	—		-	-		-	
3 悪臭	—		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40		-	
1 風害の抑制	—		3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制	—			-		-	
3 日照障害の抑制	—		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			<b>1.6</b>	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	—		1.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—		3.0	0.30		-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0		○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	1.0		-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0		-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	3.0		-	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		-	3.0	-	1.0	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0		1.0	-	3.0	3.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		1.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## 主な指標

## Q1 室内環境

## 2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.8	窓の日射熱取得率(η)	0.7
U値(W/m <sup>2</sup> K)	窓システム 6.3	屋根	0.7
		外壁	0.4
		床	0.8
住戸部分	窓システムU値 -	外皮UA値 -	η AC -
			η AH -

## 3.1.1 昼光率

昼光率 4.3%

## 4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口面積率 -

## Q2 サービス性能

## 1.1.1 広さ・収納性

執務スペース - /人 病床 - /床 シングル - ツイン -

## 1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 - VA/m<sup>2</sup>

## 1.2.1 広さ感・景観

天井高 2.6m m

## 1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース - レストスペース -

## 2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 - 年

## 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 40 年

## 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 - 年

## 2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 - 年

## 3.1.1 階高のゆとり

階高 3.95m m

## 3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 0.0%

## 3.2 荷重のゆとり

床荷重 - N/m<sup>2</sup>

## Q3 室外環境(敷地内)

## 1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 10% 建物緑化指数 2%

## 3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 89% 水平投影面積率 5% 地表面対策面積率 10% 舗装面積率 80%

## LR1 エネルギー

## 1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI<sub>m</sub> 0.75 断熱等性能等級 対象外 相当

## 2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量 - MJ/年m<sup>2</sup> 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 -

通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 -

## 3 設備システムの効率化

BPI/BPI<sub>m</sub> 非住宅 0.73 住宅 - 太陽光 17.2kW 太陽熱等 - 蓄電池 -

## LR2 資源・マテリアル

## 1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 -

## 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

## 2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 -

## 3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -

## 3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 3

## 3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -

## LR3 敷地外環境

## 2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 64% 隣棟間隔指標Rw 2.60

地表面対策面積率 16.0% 屋根面対策面積率 2.0% 外壁面対策面積率 #VALUE!

見付面積S<sub>b</sub> 434m<sup>2</sup> 卓越風向と直交する最大敷地幅W<sub>s</sub> 169.78 m 基準高さH<sub>b</sub> 3.95 m緑地 397m<sup>2</sup> 水面 m<sup>2</sup> 保水性対策面 m<sup>2</sup> 高反射対策面 m<sup>2</sup> 再帰性反射対策面 m<sup>2</sup>